

漢字の九〇パーセント以上が形声

実は、文字という言葉は、文と字とで作られていて、象形と指事の第一次造字法による文字を“文”と言い、文と文の組み合わせによって作られた会意と形声は、その子のようなものであるから“字”と言い、これを合わせて“文字”と言ったものです。

たとえば、針という字は、金という音字を母親とし、十という音字を父親として生まれたものだから、“字”というのです。“文”は親で、“字”は子です。象形・指事は親で、会意・形声は子です。

当用漢字一八五〇字で言いますと、象形・指事に属する漢字は一五〇字くらいかと思います。

他の一七〇〇字、九〇パーセント以上は、子供である会意、形声に属する漢字です。

漢字は何万字もあると言われますが、中国五千年の歴史の間に現われた文字を全部合わせたらそうなるかも知れませんが、現在ある書物に見える漢字は数千字というところでしょう。

そのうち、象形・指事に属するものは、二百字以上はいくらもないでし

よう。それらを部首として他の数千字が作られているのですから、その部首となる二百字を深く理解していれば、その組み合わせになる数千字の意味も読み方もほぼ推察できることになります。

漢字の構成は、左右に結合された場合、左の部分を“^{へん}扁”と言い、右の部分を“^{つくり}旁”と言います。形声字の場合は、多くが“扁”が意味を、“旁”が発音を受け持っていますが、その反対の場合もあります。

上下に結合されている漢字の場合は、上の部分を“^{かんむり}冠”または“^{かしら}頭”と言い、下の部分を“^{あし}脚”または“^{くつ}沓”と言います。

上から下へ垂れた形、冠と扁とを兼ねたような形を“^{たれ}垂”と言い、脚と扁とを兼ねたような形を“^{にょう}繞”と言い、周囲を囲むような形をしたものを“^{かまえ}構”と言います。これらはたいてい、意味を持っています。